

全体講評

公開模試で気付いた点は、記述式問題では、“時間管理をして、解けない設問は飛ばし、最後の設問まで目を通して、より高得点を狙って合格する”ということです。なぜならば、本試験において、本試験の最後の設問は比較的難易度が低いケースがあるからです。

論述式問題では“AEとしての施策とその根拠、考え方を明示して合格する”ということです。なぜ、考え方を明示する必要があるかということ、設問イにおいて「工夫した点を中心に」と書かれており、工夫を辞書で引くと「いろいろ考えたこと」と書かれているからです。すなわち、工夫した点をアピールするためには、少なくとも“AEとしての考え”を明示する必要があります。

記述式問題、論述式問題を通して、注意すべき点を次に挙げます。

当て字、略字は使わない

試験委員にはいろいろな職種の方がいます。中には日本語に厳しい方もいるので、細心の注意を払って解答を作成してください。

問題番号に を付ける

問題番号ではなく、その横に が付いている解答があります。ここは点数を書く欄です。本試験は、ルールを守る受験者には優しく、ルールを守らない受験者には厳しいです。決まりどおりに採点されると考えてください。

次に記述式問題と論述式問題に分けて講評します。

記述式問題講評

問1 出張手配システムの設計

【解説】

クラス間の多重度は毎回出題されます。本試験で出題されても必ず解けるように、過去問題を解いておいてください。

【設問1】

「企業コード」、「従業員コード」など、問題文で使われていないキーワードは勝手に作らないでください。本試験ではアプリケーションエンジニアとして標準化したドキュメントが書けないと判断されると考え、不正解としました。

【設問2】

「企業」ではなく、「テーブル」をきちんと付けて、「企業テーブル」と解答してください。穴埋め問題では、その周辺をチェックして標準化した解答を書くようにしましょう。

【設問3】

(1)難易度の低い設問でした。

(2)前の設問に比べて難易度の高い設問でした。正答率は10%台です。

【設問4】

(1)正答率の高い設問です。「代行者従業員番号」において、「代行者番号」、「従業員コード」など、「代行者」あるいは「従業員番号」の入っていない解答は半分の部分点としました。

(2)変更内容において「手配依頼受付処理において代行者従業員番号を登録できるようにする」という解答がありました。ここでは、処理が二つあるにもかかわらず、変更内容が一つということは、手配依頼受付処理と手配状況登録処理とで共通の変更内容を書くべきです。したがって、この解答は不正解としました。

問2 ワークフローシステム

【解説】

実際にアクティビティ図を描画する設問のある問題です。このような場合、既に描かれている部分を参考にして、解答する必要があります。一般的に穴埋め問題も、その周辺をチェックして解答するとよいでしょう。

【設問1】

設問文の「施策1の実施前後を対比させて」という記述を満足していない解答は、内容がよくとも不正解としました。

【設問2】

(1)片方正解の場合は半分の部分点としました。

(2)フォークとジョインの描画が正しく書けていれば2点、アクティビティの描画が正しく書けていれば2点としました。

なお、描画の中に「書類送付」アクティビティを書いている解答がありました。記入する必要はありません。根拠は、次のとおりです。

まず、問題においての図とは、問題文の図を指すことを確認してください。通常は図1のように表現し

ますが、図が一つしかないときは図と表現します。そこで設問文の「施策 1 を採用した場合の図のアクティビティ図を変更する必要がある」という表現のうち、「施策 1 を採用した場合の図」とは、問題文の図に施策 1 を採用した後の図を指すことが分かります。施策 1 の内容から「書類送付」に関する並列作業の同期は不要となることを導けるため、この設問の解答から除外しています。また、設問の「なお、アクティビティ図については設問 2(1)で解答したものを記入し」という記述もヒントになっています。

[設問3]

(1)分岐条件とアクティビティの描画が正しければ 2 点、マージ部分の描画が正しければ 1 点としました。
(2)アクティビティ名の正答率が 30%台で予想以上に低かったです。

[設問4]

多くの方が苦手とする計算問題ですが、正答率は 50%以上ありました。

問3 購買システムの設計と移行計画

【解説】

問題文において使われている用語は、そのまま使って解答してください。それができていない場合は厳しく減点しています。例えば、「購買」を誤字した解答は半分の部分点としました。問題文に使われている漢字を正しく書けない場合、このように減点されるので注意しましょう。

[設問1]

(1)問題文の〔追加機能要件〕の(1)に「実際の納品数となるように手書きで訂正しておき」という記述があるので、「納品数」を別解としました。
(2)予想以上に正答率が低いという印象を受けました。

[設問2]

この設問は高い正答率です。難易度は低いと判断します。

[設問3]

(1)発注処理と再納品指示処理の両方を指定していない解答は 1 点の部分点としました。
(2)設問の「運用面での作業」に注目して解答を導いて欲しいです。

[設問4]

(1)一つの項目が正解で正解数を 1 とし、一つ正解は 1 点、二つは 2 点、三つは 4 点としました。なお、一つ誤った項目が挙がっている場合は正解数を一つ減算しています。
(2)難易度の高い設問でした。

(3)ケースが不正解の場合は無条件で対処方法も不正解としました。受入処理で納品数不足を挙げた解答がありました。〔旧システムの概要〕の(2)の「数量不足の場合は受け入れない」という記述を根拠に不正解としました。

問4 小売業の販売システムの設計

【解説】

時間を各設問に適切に配分して、設問の最後まで目を通すようにしてください。この問題の設問 4 の後半の難易度は低いです。本試験でも、このような設問への難易度設定はよくあります。しっかりと時間管理をして、偏らないように得点しましょう。

[設問1]

正答率の高い設問です。そのような場合、注意深く解答を作成してください。例えば、「売上げようとした場合」ではなく、「売上処理をしようとした場合」として、売上処理を明示するようにしてください。

[設問2]

(1)「出荷対象商品置場の在庫数を管理できない」という解答がありました。出荷対象商品置場の在庫は、予約在庫数で管理されていることを〔新システムの概要〕の(4)の見分業務の記述から確認してください。
(2)追加すべき処理の名称が不正解の場合は、無条件に処理の内容も不正解としました。

[設問3]

(1)設問文の「(4)見分業務と(5)店舗間商品移動業務について」という記述から、この設問では、これら二つの業務がポイントになると考え、解答を導く範囲を絞り込むようにしましょう。
(2)難易度の高い設問です。

[設問4]

(1)設問 1 が伏線になっている設問です。
(2)「タイムスタンプ」までは解答として導ける方が多かったです。「昇」まで導いた方は、そのうち半数くらいでした。「タイムスタンプ順」でも意味が通るので、「タイムスタンプ」を別解としました。
(3)高い正答率でした。

論述式問題講評

質問書は重要な解答用紙です。次の点に留意してください。

質問書の未記入

注意してください。質問書が未記入の方がいます。質問書を専門家らしく、しっかりと書けるようにしてください。特に、「システムの名称」は、あなたの第

一印象です。ここで、採点者は“ 合否のあたり ” をつけると考えられます。

質問書と論文との整合性の確保

質問書と論文の整合性を確保するようにしましょう。質問書では、あなたの担当業務を“ プロジェクト管理 ” として答え、論文では“ アプリケーションエンジニアとしてシステム開発に参画した ” では、論文に一貫性がないと判断され、本試験では減点の対象となります。

アプリケーションエンジニア試験に見合った担当業務

これから私たちが受験する試験は“ アプリケーションエンジニア試験 ” ですから、あなたの担当業務は“ システム設計 ” とすべきです。

もう一度、「午後 論文の解法テクニック」などのテキストで質問書の書き方を確認しておきましょう。

今後、論述練習する際に、次の点に留意するとよいでしょう。

題意に沿って章立てをする。

出題の趣旨との整合性に細心の注意を払う。

ていねい語がない、論文としての体裁が整った文章を書く。「～殿」、「～していただいた」、「お客様」、という表現が目立ちます。

第三者を意識して読みやすい文章を心がける。

論文を書き終えたら、誤字脱字を中心に見直す。

論文を書き終えたら、第三者に読んでもらい、読みやすい文章であることを確認してもらうことが重要です。本試験では、時間切れで論述の途中で終わることがないように、論述中は時間配分に注意しましょう。例えば、25 分前には設問の論述を終了するように時間管理してください。

論述終了後は受験番号などの記入、問題番号の選択をチェックして、必ず論述内容を見直してください。その際、解答用紙に消しゴムの消しカスなどが挟まれていることを確認してください。

(合格に向けて)

公開模試の解答解説、この講評と採点基準、各自の解答などを参考にして自分の弱点を発見し、それを本試験までに克服するように学習スケジュールを見直しましょう。

記述式問題の演習を本試験の過去問題を用いて行う場合は、問 1 と問 2 は 25 分、問題 3 と問題 4 は 40 分で解くように時間管理してください。論述式問題の演習を行う場合は、第三者に分かりやすい論述を心がけて、本試験の前日は必ず 1 本の論文を書くよ

うにしてください。

各自、仕事が忙しいでしょうが、合格に向かって学習スケジュールを努力して消化し、万全の体制で本試験に臨みましょう。

以上